



戦争法に反対する宗教者の気持ちを語る若麻績住職（左）＝3日、長野市

2000 万署名 善光寺初詣客次つぎ

長野市

初詣でにぎわう長野市の善光寺に向かう参道近くで3日、戦争法廃止を求める2000万署名が取り組まれ、3時間で375人分が寄せられました。小4、5年生の女児連れの30代夫婦（長野市）は参詣後、「子どもたちの将来が不安だ。もっ

と戦争の悲惨な事実を伝えてほしい」と署名しました。

行動を呼びかけたのは、「いのちと暮らしを脅かす安全保障関連法に反対する医療・介護・福祉関係者の会」。医師や看護師、ヘルパーらが地元はじめ埼玉や東京、千葉、京都などから駆けつけ、戦争法廃止で運動する各分野のスピー

チ、歌声が続きました。

県内野党も共産、民主、社民各党が次々にスピーチを行い、「野党は共闘」のコールの中、無所属議員と手を組んでアピールしました。「これまで自民党支持だったが」と切り出したのは、善光寺白蓮坊の若麻績（わかおみ）敏隆住職。「戦時

中、仏教界は戦争に反対するどころか加担し、内外で多くの命が奪われた。仏教精神に反する。命を大事にする政治を」と戦争法（安保法）反対の意思を表しました。

参加したホスピス医の山本直樹さん（54）は、「年間2000人を見とるが、誰の命も尊く、いつも天寿を願っている。人殺しの戦争はとんでもない。1人区で、安倍政治を引っくり返したい」と語りました。